岩見良太郎先生・岡部恒治先生のご退職にあたって

経済学部長　伊　藤　　修

平成 23 年 3 月末をもって，岩見良太郎先生，岡部恒治先生がご退職を迎えられた。経済学部として，両先生に感謝の辞を申し上げたい。

岩見良太郎先生は，平成 6 年，経済学部教授として着任され，以来 17 年，主として都市行政論をご担当いただいた。

先生は工学部都市工学のご出身であるが，人のための，住民主体のまちづくりを追求される中から，「場所」「場」といった哲学的概念にまで研究の射程を広げられた。また学生を率いてフットワーク軽く現場に足を運ばれた。こうして社会環境設計学科の都市環境設計分野の発展を主導され，ゼミや大学院研究室からはそうした問題意識をもった多くの人材を輩出された。大学運営の面でも，社会環境設計学科長をはじめ要職を歴任していただいた。

先生の歩く姿もフットワーク軽いが，お若いころ体操競技をされていたそうで，そのせいもあろうか。このお話は学部のチームによるタイ東北部農村振興の大がかりな現地調査でご一緒した際に伺ったと思う。なかなかきつい仕事であったが，そこで同じ釜の飯を食べたことは今となれば楽しい思い出である。先生には今後ともご活躍を続けていただけるものと思う。

岡部恒治先生は，昭和 51 年，本学教養部講師として着任され，昭和 52 年助教授，平成元年教授に昇任されたのち，平成 7 年，改組に伴い経済学部に転任された。したがって経済学部で 16 年，埼玉大学で通算 35 年の長きにわたり勤務されたことになる。学部では経済学科に所属され，主として経済経営数学をご担当いただいた。

先生は，ベストセラーをはじめ多数の著書を公刊されてこられただけでなく，教科書の編纂，学習指導要領の策定，リスーピアの運営など，数学教育に関して指導的な役割を担われ，社会的にも多大な貢献をされた。本学部さらには埼玉大学の看板教授であった。大学運営においても，経済学科長，全学教育企画室をはじめ，教養教育を中心に長年ご活躍をいただいた。

事務的にそうだと言われなければ，岡部先生が定年とは信じられない人が多いのではないだろうか。それほどお若くエネルギッシュで，元気満々である。数学教育にかける熱意は衰えをみせないし，直球勝負で歯に衣着せず意見を述べられる姿も，まさしく青年（少年？）のそれを変わらず維持しておられる。今後ともご活躍を続けられ，社会に貢献していただけるものと確信している。

大学はいま財政資金投入機関として，効率化，説明責任（計画・報告）を問われる厳しい圧力の下にある。それが必要な側面があるのは確かであるが，やりようを誤ると大学本来の使命を圧迫する本末転倒になる恐れが大いにあり，現にその傾向は出ている。そうした今日，両先生が示されてきた自由な精

神を，われわれは大事にして受け継いでいきたいと思う。

岩見先生，岡部先生，長いあいだ経済学部のため，学生のため，学問のために，本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。どうか今後とも温かくそして厳しく見守って下さい。